

# 東洋ソーラー

## 2 転機となった震災

### 【会社概要】

所在地 松江市北陵町46-5  
営業種目 電気機械器具卸小売り業  
代表取締役社長 藤原一美  
従業員数 47人  
電話番号 0852(28)1010



幹部社員と事業の相談を行う藤原一美社長（左）＝松江市北陵町、東洋ソーラー本社

50歳を目前にした初代藤原憲一が、太陽熱温水器の技術者である知人らとタッグを組んで起業した東洋ソーラー(株)(松江市北陵町、藤原一美社長)。山陰の気候に合わせた独自商品が注目を集める中、次なる経営の軸に据えたのが世界的に需要の高まる太陽光発電システムだ。こだわりの営業スタイルと時代のニーズに後押しされて業績は徐々に向上。さらなる転機となったのが、2011(平成23)年に発生した東日本大震災だった。

### 環境意識高まり受注増

日本の太陽電池生産量がアメリカを抜いて世界1位になった翌年の00(同12)年、東洋ソーラーは住宅用太陽光発電システムの販売・施工を開始した。先進国の温室効果ガス排出量について各国ごとに数値目標を設定した京都議定書の採択を受け、世界

的に環境意識が高まる中、国が早期から補助金制度を進めていったこともあり、受注は次第に伸びていった。

05(同17)年には出雲支店を開設、翌年には大規模な工事も請け負えるよう建設業許可を取得。09(同21)年からは産業用太陽光発電システムの販売・施工もスタートさせた。

そして11(同23)年には、中国電力のエコキュート販売コンテストで1位を獲得。ポイラーを使っていた顧客にオール電化への移行を勧めたところ、安全性やコストパフォーマンスの高さなどから支持を集めたのが要因だった。

その年の3月に東日本大震災が発生。原子力発電のリスクがクローズアップされ、国が再生

可能エネルギーの普及を推進する固定価格買取制度を開始すると、太陽光発電の需要は一気に高まっていった。新たに起業する同業者も増えてきたが、長年販売から点検まで自社一貫体制で



島根県産業技術センターの吉野勝美所長(当時、左)と藤原憲一氏(中央)＝2012年

# 一気に高まる太陽光発電需要 父の急死受け42歳で転身決意

実施してきた東洋ソーラーが、優位の座を譲ることはなかった。

## 急がれる後継者の指名

業績向上とともに社員の数も増え、産業用地「ソフトビジネスパーク島根」への本社移転も決定。しかし、創業以来最高とも言

える勢いに乗る憲一を病魔が襲った。がんだった。

「2度目の手術では胃の5分の4を切除したにも関わらず、大型案件に対応しようと早々に退院。再び体を壊してしまい、あつという間に亡くなってしまいました」と長男で現社長の一美（51）。新天地への移転を2日後に控えていた12（同24）年9月の

ことだった。

当時、東洋ソーラーに在籍していた社員は約40人。10誌以上の太陽光発電システムは全ての電力を売電できる全量買取制度がスタートして間もなかったこともあり、契約が立て込んでいた。契約書に記載すべき代表者が突如旅立ち、後継者の指名が急がれていた。

松江市のプライダル会社で衣装部統括部長の要職に就いていた一美は、悲しみに暮れる間もなく、父親が創業した会社の未来に頭を悩ませた。「社員に任せるか、自分が入社して継ぐべきか」。当時の取締役と相談して後任を決めた後も、通夜の席で勤務先の社長に家業への転身を勧められても、容易には決断できなかった。

過去にも父親に入社を誘われたこともあったが、多くの顧客を抱え、仕事にやりがいを感じていた一美は、首を縦に振らなかった。しかし、翌日の葬儀で数多

くの社員の姿を目の当たりにして、気持ちが変わった。「社員やご家族の生活を守ることから逃げてはいけない」。20年近く勤めた職場を退職し、父が興した会社を担うことに決めた。42歳の転身だった。

## 社長就任し資本金増資

実家では業務内容について父親と意見を交わすことも多く、太陽光発電システムの知識はあった。前社では要職を任せられ、経営にも参画していたほか、商工会議所などを通じた人脈も持っていた。しかし、組織を率いていくには十分ではない。専務として入社後は若手中堅社員に付きつきりで業務を教えてもらうとともに、大手メーカーや各種展示会などに積極的に足を運び、自ら営業も行った。

入社約半年後の13（同25）年、社長に就任。同時により大きな事業を担えるよう資本金を増やし、特定建設業の許可も得た。名実ともに社を背負うことになった一美がまず考えたのが、会社と社員の未来だった。「太陽光発電市場は必ず変わる。次の時代を見据え、組織と人を育てる必要がある」

（文中敬称略）

次号に続く

フリーライター・門脇奈津子



ソフトビジネスパークに移転した東洋ソーラー本社＝松江市北陵町



現社屋の屋上には一面に太陽光パネルを設置



東洋ソーラーが運営する合計出力3.6MWの江津メガソーラー＝江津市二宮町